

# 第46回「議員と語り合い」報告書

地域テーマ型 1班(No.1)

開催日	令和6年7月25日(木曜日) 19時00分 ~ 20時30分		
開催場所	福山総合支所 別館2階		
団体名	個人参加(福山地区)	参加 人員	7人 (男 7人:女 0人)
出席議員	久木田 大和、松枝 正浩、山口 仁美、川窪 幸治、宮内 博、前島 広紀、下深迫 孝二、竹下 智行、傍聴(野村 和人)		
役割分担	班長(久木田 大和)、副班長(松枝 正浩)、記録係(山口 仁美)		
テーマ及び 具体的な内容	公共交通と移住対策		

意見交換での 主な意見等	<p>【1班】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ふれあいバスの便数が少ない。</li> <li>● デマンド交通の認知度が低いので、調査をした上で、高齢者向け講習会の必要性</li> <li>● 運転免許証を返納した場合の地域向け交通</li> <li>● 買い物について、移動販売が週1回。安否確認を兼ねて、市から補助をして回数を増やせないか。</li> <li>● 移住については、変わり者でないと来てくれないのではないか。</li> <li>● 職がなければ来てもらえないので、地域おこし協力隊などを活用できないか。</li> <li>● 鳥獣被害についての捕獲班としての協力隊募集はできないか。</li> <li>● 鳥獣対策の更新時の費用負担が大きいので、委託する方々に補助できないか。(健康診断・更新料等)</li> <li>● ジビエ加工施設の検討ができないか。</li> </ul>
	<p>【2班】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ふれあいバス、デマンド、民間バスがあるが、便が悪い。デマンドへの切り替え検討が必要なのではないか。</li> <li>● 動けない方々の支援。宅食の利用もあり。</li> <li>● バス停までの距離がある。</li> <li>● 病院に行くまでの交通手段がない。</li> <li>● 福山体育館の修繕ができれば、人口減対策にもなるのではないか。(指定管理含めて、年間 2500万円かかっている)</li> </ul>

## 【3班】

## ＜助け合いの課題＞

- 一人暮らしの女性が多い。子どもが近くにいないので、住民同士で助け合っている実情がある。しかし、もし何かあるとまずい(事故)という懸念があるため躊躇している。今後は、病院や買い物などの支援をどうするか→支える側も高齢化していく。
- Aコープ・ローソンしかない。鹿児島銀行も閉まった(ATMは使える)。車がないと住めない地域になっている。90歳でも運転している現状だ。
- ライドシェアの検討や、Mワゴンを活用できれば。(現在実証運行中)
- 自主的にNPOを立ち上げるような担い手は難しいと思うが、地区ごとに委託できそうな人を呼びかけて育成して、担い手になってもらえばどうだろうか。
- 介護施設・病院などの送迎車に送迎をさせていくのはどうか。＞介護保険の法の範囲をクリアしながら、地域の支え合いに役立てられるか。
- 地域交通のあり方は、大型スーパーに相談して買い物巡回バスなどもできないか。
- 個人を対象とする活動では、地域のひろばの活動に認められない。草刈り・ボランティアなど、実費+ $\alpha$ の金銭的負担について、助け合いをする場合にも補助する仕組みができないか。

意見交換での主な意見等

## ＜地域医療＞

- 八木クリニックが往診をしてくださっているので、「現在病院に行けない」という話題はないが、70代半ばでもあり、今後は心配。始良市の泌尿器科を紹介された事例も。
- 有馬病院は昼までの診療。後継者がいない。
- 医療センター等と、地域医療をどう支えていくかという話題が出ている(議員)

## ＜定住対策＞

- 子どもが少なくなる中で、どう地域を成り立たせていくのかを考えるべきだ。公営住宅の維持管理費もお金がかかっている。空き家も多い。公共施設の対策をすべき。
- 年齢によらず、助け合える仕組みを作っていけると良い。
- 小学校の人数。最大750人→現在50人。学校が理由で国分・隼人に住むという話題もある。
- 福山全域から、牧之原地区に人が集まってきた。これが今後は国分・隼人に流れていくのではないか。
- 60代以下が少ない。現在の60代の世代までは「住みやすい地域」という認識だが、人口が減っていくとどうなるか。

## ＜社会全体について＞

- 子どもを産み育てていく事に対して投資をすることが必要。
- 将来を支えていくために、投資して消費を拡大していくことを考えなければならない。
- 結婚しなくても、結婚している人と同じように、子育て支援をしている。
- 高齢者は厚生年金・貯金がある人も多い。真に困っている人たちには支援が必要だが、少子の人たちにどうお金を使っていくか。